

購入・レンタル

4つのご利用プランがあります。ご年齢やお体の状況によって利用できるプランが異なります。

	レンタル (自費)	レンタル (介護保険制度利用)	購入 (自費)	購入 (補装具費支給制度利用)
費用	約27,000円 (月額)	約2,700円 (月額)	45万円 (買い切り)	0円～10万円 (買い切り)*
利用する 制度名	なし	介護保険制度 介護が必要だと認定されれば、 電動車椅子をレンタルする費用 の9割が給付される制度です。	なし	補装具費支給制度 身体状況、年齢、職業、学校教育、 生活環境等の諸条件を考慮して、 電動車椅子の購入にかかる費用 の一部または全部を市町村が支 給する制度です。
対象となる 年齢	どなたでも	・40歳～64歳の方で、介護保険 制度における特定疾病をお持ち ・65歳以上の方	どなたでも	・39歳以下の方 ・40歳～64歳の方で、介護保険 制度における特定疾病をお持ち ではない
対象となる 身体状況	どなたでも	要介護認定を受けた方	どなたでも	身体障害者手帳をお持ちの方 指定難病をお持ちの方
手続き	不要	担当ケアマネージャーによる承 認が必要	不要	自治体に申請して、判定などの 手続きが必要

*身体・生活状況を考慮して自治体からの支給額が決定します。支給額には個人差があり、10万円を超える可能性もあります。
※レンタルでのご利用の場合、アプリ、WHILL Smart Careは利用できません。あらかじめご了承ください。

Specifications

走行距離	16km ※路面状況などにより変化	充電時間	5時間
最高速度*	6km/h	フロントタイヤ	オムニホイール
段差乗越	5cm	リアタイヤ	ノンバンクタイヤ
登坂力	10度	アーム	跳ね上げ式
最小回転半径	760mm	最大荷重	115kg
サイズ(幅×長さ×高さ)	550×985×740-940mm	バッテリー	リチウムイオン(25.2V 10.0Ah)
重さ	約52kg	使用環境**	-15℃～40℃

*急な坂道を走行すると減速度合いが変わることがあります。

**走行中にバッテリーの温度が著しく低下すると、バッテリーが低温モードになって、減速度合いが変わることがあります。

WHILL Model Cの成果の一部は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業の結果得られたものです。

ウィル
WHILL株式会社

本社 〒140-0002 東京都品川区東品川2丁目1-11 ハーバープレミアムビル 2F

西日本オフィス 〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町 93番地 京都リサーチパーク 6号館313号室

WHILLコンタクトデスク ☎ 0120-062-416 平日: 9:00～18:00



近距離モビリティ WHILLでサポートする 自立の形



データで見る電動車椅子の新事実

1. 重度障害者だけが使うものではない！
2. 「電動車椅子に乗ると歩けなくなる」は間違い！



電動車椅子に このような心配ありませんか？

電動車椅子に乗ると
足が弱るのでは？

担当患者さんの身体状況が、
電動車椅子利用の対象か？

電動車椅子に乗ると
病気が進行するのでは？

身体機能回復を目指すので、
そもそも福祉用具は馴染みがない

在宅に戻った患者さんが
電動車椅子使って
どのような生活しているのか？



INDEX

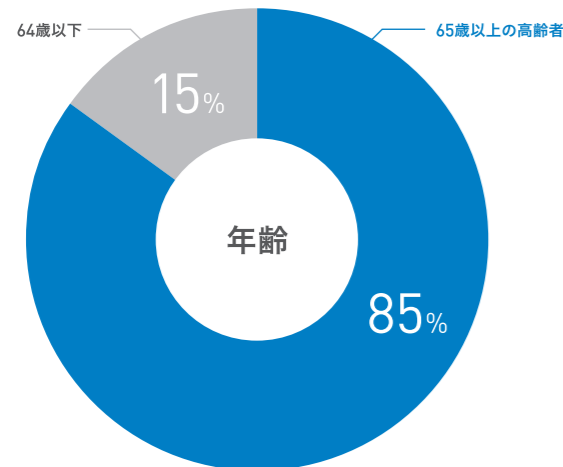
- 1 電動車椅子の新事実 1
重度障害者だけが使うものではない！...P3**
中軽度の身体障害がある高齢者こそ、電動車椅子が自立のサポートに！
- 2 電動車椅子の新事実 2
「電動車椅子に乗ると歩けなくなる」は間違い！...P5**
電動車椅子を有効利用しながら機能回復する2つのポイント
- 3 実際の事例...P9**
A様 60歳女性の場合
K様 50歳男性の場合
- 4 WHILL Model Cのご紹介...P11**
WHILLが作られた理由
WHILLの機能紹介
- 5 他社との比較...P15**
簡易電動車椅子、シニアカーとWHILLを比較
- 6 お客様の声...P17**

重度障害者だけが使うものではない！

WHILLはこのような方に利用されています。

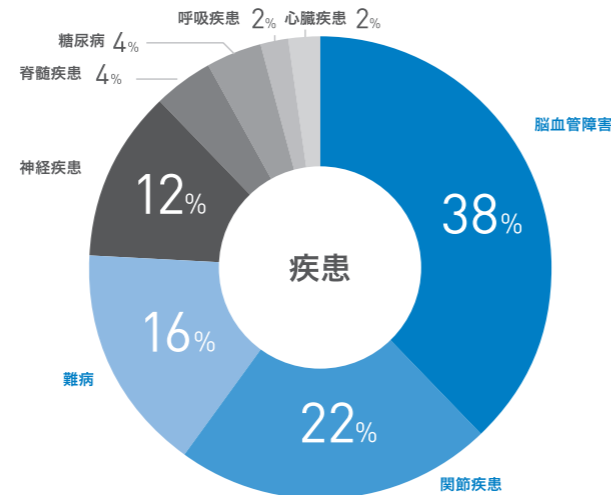
中軽度の身体障害がある高齢者こそ、
電動車椅子が自立のサポートに！

WHILLの利用者の 85%が高齢者



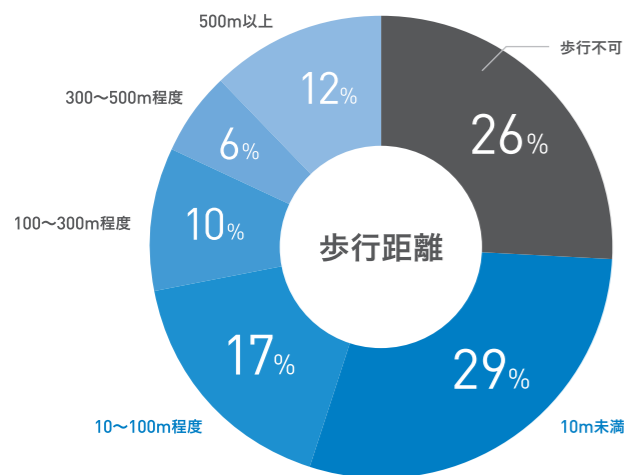
通算販売台数より

脳血管障害や 関節疾患の方が多い。



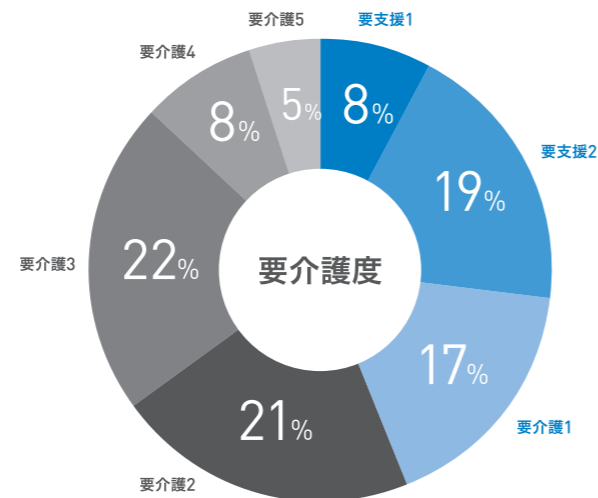
介護保険レンタル利用者に対するユーザーアンケート
2019年1月～2020年5月Web上で継続実施 回答者数76人

約75%が歩行できる状態で WHILLを使用している。



WHILLユーザー調査
2020年3月19日～31日Web上で実施 回答者数86名

約45%が介護保険では 軽度者にあたる方。



介護保険レンタル利用者に対するユーザーアンケート
2019年1月～2020年5月Web上で継続実施 回答者数76人

今まではこのような利用ステップだけだと考えられてきましたが…



実際にはこのような利用ステップが多く見られました。



よくあるイメージ

電動車椅子は、手動車椅子が漕げなくなった人が使うもの

利用実態

「認知機能」の衰えのない、軽度者・中度者が
自立・外出支援のために利用しているケースが多い。

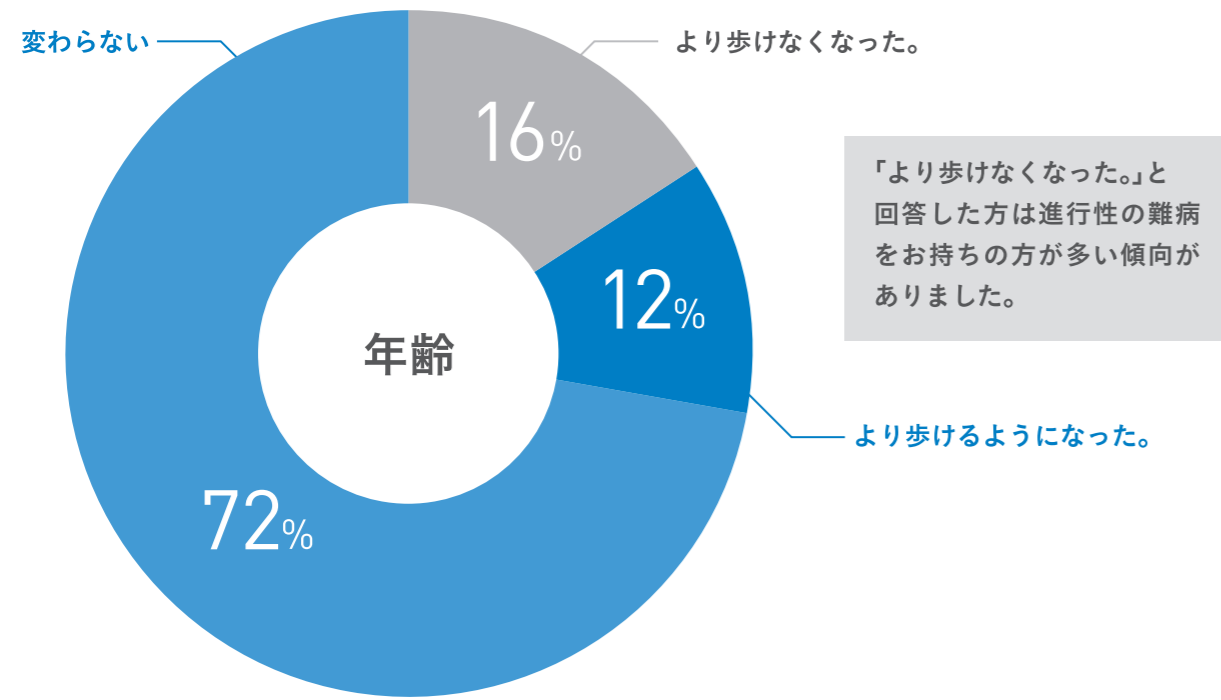
介護保険レンタルの利用基準では「電動車椅子」は**要介護度2以上**
しかし、要介護度1以下でも**特例給付**として利用可能となる場合があり、
最近では**軽度者の外出支援**としても認められつつあります。

「電動車椅子に乗ると歩けなくなる」 は間違い!

歩行機能が上がった方の
実際の体験談から見る

電動車椅子を有効利用しながら 機能回復する2つのポイント

約85%の方が、電動車椅子に乗っても歩行能力は落ちなかったと回答。



介護保険レンタルユーザーのうち
WHILLを返却する人の20%は、「ADL向上」が理由です。

- ・20%が「ADL回復」のためWHILLを返却
- ・その他「入院、ご逝去、生活スタイルに合わないなど」

ADL回復によりWHILLを返却された方の事例

理由(カテゴリ)	理由(詳細)	要介護度	利用日数
ADL回復	二号保険者で若く、リハビリによりADLが回復し利用の必要がなくなったため解約	要支援2	206
	ADL向上で最終的に自走式車椅子に変更となった為	要介護4	17
	ADLの回復	要支援2	30
	病状が軽快し、使用しなくなったため	要支援1	204
	リハビリにより自走が出来るようになり、自走式車椅子へ変更。介護者が就労したため外出機会が少なくなり、自宅内の移動が主となったことにより変更	要介護2	267
	元気になって不要となったため	要介護2	192
	季節により病気症状が変動し、現在は症状が安定。必要がないため解約。	要支援2	133

その1:「安全な歩行」の機会を確保する。

高齢者にとって転倒は命取り、無理な歩行の危険性

表20 要介護度別にみた介護が必要となった主な原因(上位3位)

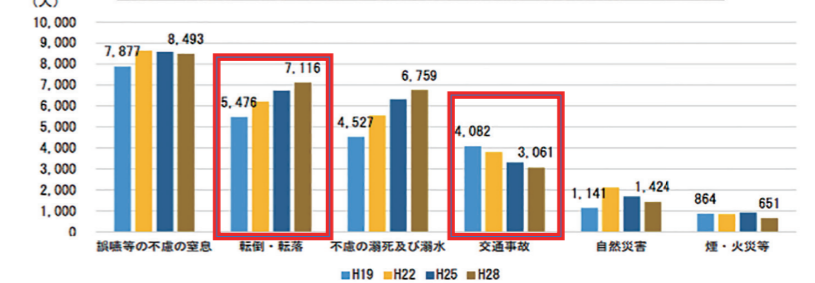
要介護度	平成28年		
	第1位	第2位	第3位
総数	認知症 18.0	脳血管疾患(脳卒中) 16.6	高齢による衰弱 13.3
要支援者	関節疾患 17.2	高齢による衰弱 16.2	骨折・転倒 15.2
要支援1	関節疾患 20.0	高齢による衰弱 18.4	脳血管疾患(脳卒中) 11.5
要支援2	骨折・転倒 18.4	関節疾患 14.7	脳血管疾患(脳卒中) 14.6
要介護者	認知症 24.8	脳血管疾患(脳卒中) 18.4	高齢による衰弱 12.1
要介護1	認知症 24.8	高齢による衰弱 13.6	脳血管疾患(脳卒中) 11.9
要介護2	認知症 22.8	脳血管疾患(脳卒中) 17.9	高齢による衰弱 13.3
要介護3	認知症 30.3	脳血管疾患(脳卒中) 19.8	高齢による衰弱 12.8
要介護4	認知症 25.4	脳血管疾患(脳卒中) 23.1	骨折・転倒 12.0
要介護5	脳血管疾患(脳卒中) 30.8	認知症 20.4	骨折・転倒 10.2

介護が必要となった
主な原因に
「骨折・転倒」がランクイン

厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査の概況」
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa16/dl/16.pdf>

高齢者の「転倒・転落」による死亡は「交通事故」の2.32倍

図表3. 高齢者の不慮の事故による死亡者数(年次別・主な死因別・3年ごと)¹⁹



「人口動態調査(厚生労働省)H28 消費者庁まとめ」
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_009/pdf/caution_009_180912_0002.pdf

「歩けるけど歩くのが不安」という方が日常生活で歩行する機会を得るのは難しい。

平坦な道は平気だけど、
デコボコ道や傾斜は怖い...

人前で転倒してしまった時は、
ショックだったなあ。



手ぶらなら歩けるけど、
荷物を持って歩くのは無理...

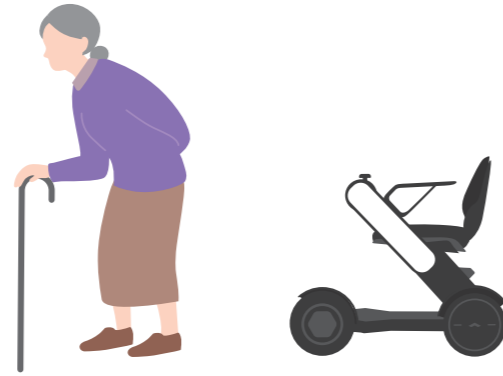
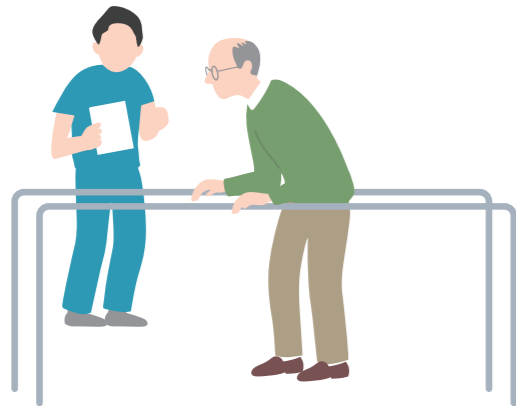
散歩ぐらいしか外に出る
理由がないなあ。



外出することが怖くなったり、億劫になることで、
ますます歩かなくなることに。

WHILLを導入したことで、安全な歩行の機会を確保できたという多くのお声があります。

電動車椅子で出かけられるようになり、公園などの安全な場所で歩く機会を得られるようになったことで、より歩けるようになりました。



ストレスなく通院することができるので、リハビリをさぼらなくなりました。



一人でショッピングができるようになったことで、行きたい場所が増え、以前よりリハビリに精が出るようになりました。

その2:「外に出たい」という意志を失わせない。

「大変な外出」は外出の楽しさを忘れさせてしまう。

押しってもらうのが申し訳ない。
人の手を借りないと移動できない自分がつらい…



数センチの段差や、ちょっとした傾斜も、
漕ぐのは大変…



大切なのは「移動手段とリハビリの分離」

利用者さんがWHILLを活用することで、行きたいところ/行くべきところに行く意欲が湧く。
転倒などの危険を回避し、安全に移動し、外出先で活動が可能のため、
結果、トータル活動量が増加・社会的自律の実現に寄与できる。



買い物や通院など自宅周辺のみ外出していた方も、
電動車椅子を活用することで外出先の選択肢が増え、行動範囲が広がります。

「ADLからQOLへ」

宮田広善 様

姫路聖マリア病院 小児科顧問 重度障害総合支援センター「ルルド」センター長
『子育てを支える療育』など著書多数

幼児期に罹患したポリオのため両下肢が不自由で、
ご自身もWHILL Model Cを利用

ADL (Activity of Daily Life) の自立とは、トイレ動作や歩行、服の脱ぎ着などの日常生活動作が全部自分でできることです。障害がある方の今までのリハビリテーションの目的はADLの自立でした。しかし、1980年のリハビリテーション世界会議からADLを求めるリハビリテーションからQOLを求めるリハビリテーションに変わっていきと言われ出しました。QOL (Quality of Life) とは、ひとりひとりの人生の質や生活の質のことを指し、ある人がどれだけ人間らしい生活や自分らしい生活を送り、人生に幸福を見出していくか、ということ尺度としてとらえる概念のことです。例えば、1時間以上かけて自分で服を着替え、長時間かけて自分の足で一生懸命に目的地まで歩き、結局自分のしたい活動の時間がとても短くなってしまふAさんより、人の手や機械の手を借りて服の脱ぎ着を15分で済まし、電動車椅子を使って移動を簡単に短時間で済ませることで、自分の活動時間をしっかりとるBさんの方が、人間の自立度として高くなるといった考え方が「ADLからQOLへ」の考え方です。手動車椅子や歩行での移動に支障を感じ始めている人にとって、電動車椅子はQOLの向上に大きな役割を果たすだろうと思います。



実際の事例1

A様

60歳女性 主婦(夫・息子2人の4人暮らし)

要支援2、障害者手帳2級

脳梗塞により左半身麻痺

500m以上、20分ほどは連続歩行可能

WHILL使用歴2年(介護保険レンタルで使用中)

介護保険サービス利用状況

通所リハビリ3回/週、訪問リハビリ1回/週、

福祉用具レンタル

※自費でヘルパー利用(家事援助)、整骨院、アクアケアに通う。

1週間のスケジュール ()内はその時の移動手段

	午前	午後
月		通所リハビリ(送迎バス)
火	子供と美容院	
水	ヘルパー来訪(家事援助)	通所リハビリ(送迎バス)
木		通所リハビリ(送迎バス)
金	体のバランスを整えるため 整骨院(歩き)	プールでアクアケア (WHILLで移動)
土		
日	百貨店へお買い物 (WHILLで移動、店内は歩き)	

実際の事例2

K様

50歳男性 会社員(妻・息子との3人暮らし)

要介護3、障害者手帳1級

脳梗塞により左半身麻痺

500m以上、20分ほどは連続歩行可能

WHILL使用歴1年(介護保険レンタルで利用中)

介護保険サービス利用状況

通所リハビリ3回/週、訪問マッサージ2回/週、

福祉用具レンタル

※リハビリ自体は一回あたり30分程度だが、デイケアも含んだ施設で、一日型のレクリエーションの中にもリハビリの要素がふんだんに盛り込まれている。

1週間のスケジュール ()内はその時の移動手段

月	通所リハビリ(送迎)→散歩(歩き)
火	仕事(WHILLで移動)
水	通所リハビリ(送迎)→散歩(歩き)
木	仕事(WHILLで移動)
金	通所リハビリ(送迎)→散歩(歩き)
土	仕事(WHILLで移動)
日	ウォーキング→外出(WHILL)

「電動車椅子での移動」と「歩行での移動」を組み合わせた生活

平坦で近距離、荷物を持たずに安全に歩けるところは、リハビリのために歩いています。



歩行で移動

- ・家の中
- ・家から600mの駅前
- ・整骨院
- ・スーパーや百貨店の店内



使い分け

荷物を持ちながら歩くことはできませんが、WHILLで行くと一人で安全にお買い物ができます。



WHILLで移動

- ・アクアケアのためのプール
- ・スーパーや百貨店の出入り口まで
- ・電車やバスに乗るとき

ご本人のコメント

どんどん歩けるようになっていきます。

WHILLが来たことで、外に出て行きたくまりましたし、**実際、外出頻度は増えました**。元の生活に戻りたい思うからこそ、**リハビリにも精が出ています**。

WHILLですーっと綺麗に移動して、WHILLから降りても綺麗に歩けるようになりたいと思っています。リハビリを受けて歩行トレーニングしている身なので、遠くへ行く時や電車を使う時以外は、**歩くように意識しています**。私は病気になってから「家族に頼まなくては、どこへも行けない。」というポジションでした。WHILLがあることで、また家族に頼らず一人で過ごせる時間ができ、生きること

に自信が持てるようになりました。WHILLって車みたい。車の運転が好きだったので、楽しいです。

ご主人のコメント

家族も明るくなりました。

WHILLが来たことで私も働きに出ることが出来るようになりました。安心して妻を一人で家に置いておけるからです。**WHILLが玄関にいてくれると、何とかなるという気持ち**。いざ何かあっても、慌てて自分の足で一生懸命歩かなくてもいい。お守りになるのです。

移動手段とリハビリの分離

散歩や
ウォーキング



使い分け

通勤や長距離
の外出



ご本人のコメント

あまりにWHILLでの移動が快適なので、歩こうとしなくなりそうですが、**行動範囲が増えるので活動意欲が湧き、リハビリにも力**を入れようと思えますし、実際は、意識的に散歩などの運動を定期的に行っています。元々リハビリをしているとはいえ、歩行での「通勤」などは、現状では現実的ではないため、**安全に公共交通機関などを使用して移動**できるように、WHILLの利用を決めました。通勤はWHILLを利用していますが、**職場建物内や近場は歩行**するようにしています。

担当PT様インタビュー

数値の変化

FIM

通所リハビリ

通い当初 85点
(歩行 一部介助見守り)

最新 90点
(歩行 歩行自立)

IADL

WHILL利用前 5点

WHILL利用後 17点

5点
アップ

12点
アップ

担当PT様(管理職)コメント

ADL(日常生活動作)より一歩、本人の趣味・思考に寄り添い、動作事態に判断が求められるIADL(手段的日常生活動作)を基準に考えると、WHILLとの相関性が分かりやすいため、指標となると考えます。

社会復帰したい本人の、一番の問題は「職場への移動」であり足がなかったのですが、身体機能を上げてからでは時間的なラグがある。身体機能の問題で制限をかけてしまいがちですが、IADLに着目する事で、**本人のやりたい事を最優先にできます**。加えて、ADLを上げるためにもWHILLを活用するのが良いと考えました。ケアマネージャー、貸与事業者とも連携して、走行練習やシュミレーションなどを数日間しっかり行いました。相談を受けた当初は、ご家族も身体能力低下を危惧し、WHILL利用を反対していましたが、本人の利用したいとの熱い想いと、そして本人・ご家族ともに**「社会参加・復帰」できるという自信や、安心感**を得られるきっかけとなるとの事で利用が決定しました。WHILLは「頼る」というものではなく、**「一つの移動手段」であり、我々でいう「車」のようなもの**なのだと思います。WHILLを使って目的地に着いてしまえば歩きかけになる、歩行能力を活かせますし、持っているADLを最大限に使ってもらうため、WHILLを活用して欲しいと考えます。Aさんが、リハビリに来ている若手メンバーの希望の星・目標になっているのも大変喜ばしいですね。

次世代型電動車椅子 WHILL Model Cのご提案

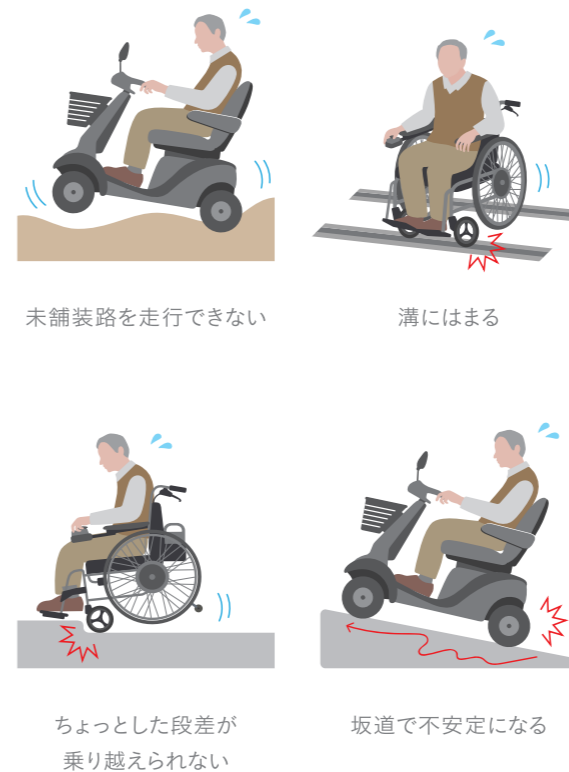
なぜWHILLが 作られたか



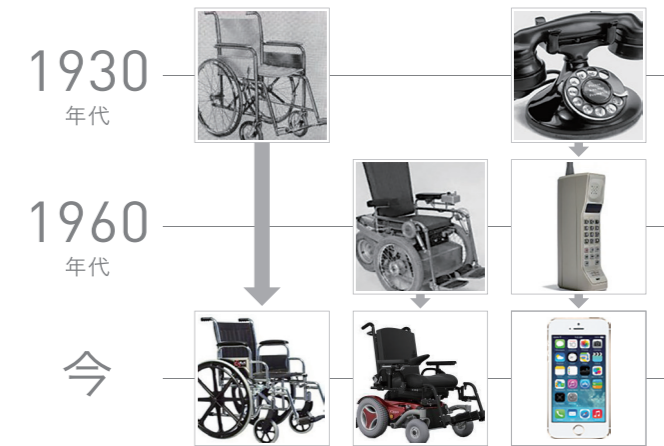
メンバーが会ったその車椅子ユーザーの方は、行動力があり社会的な人でした。しかし、車椅子に乗っていることで、自分がどうい人間かに関わらず、「障害があり、助けが必要な人」という視線で見られてしまうこと、それが外出を阻むと語ってくれました。自動車やバイクなどの乗り物には、さまざまな種類があります。その中から自分が気に入った機能や、自分らしいデザインの製品を選ぶのが普通です。しかし、電動車椅子という「乗り物」のバリエーションは限定的でした。ユーザーは、自分らしいと感じられ、積極的に乗りたいと思える製品を選べずにいました。なぜなら、一般的な電動車椅子は機能を優先しており、「自分らしさ」やデザイン性の優先度は高くなかったのです。結果として、そのデザ

ンは数十年前からほとんど変わっていません。車椅子ユーザーが直面する悪路、段差など物理的なハードル。そして、「車椅子に乗っている人」として周囲から見られる心理的なバリア。デザインとテクノロジーの力があればそれが超えられる。そう考え、創業メンバーは、誰もが乗りたくなる、革新的な一人乗りの乗り物（パーソナルモビリティ）を自分たちで作ろうと決心したのです。それは、「眼鏡」のイメージでした。当初は目が悪い人のための福祉用具として作られた眼鏡ですが、今ではデザインが洗練され、バリエーションも増えて、ファッションアイテムとして目が悪くない人でも進んで利用するほどになっています。デザインの力が、製品カテゴリを福祉用具からファッションアイテムに変えたのです。

物理的なハードル



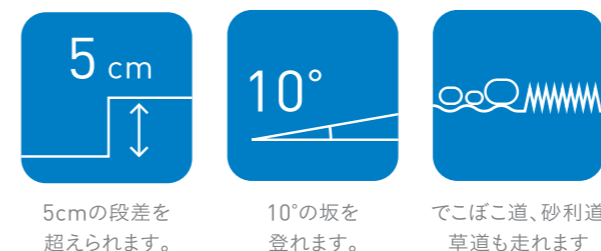
精神的ハードル



打破



打破



「100m先のコンビニに行くのをあきらめる」
一人の車椅子ユーザーのこんな声からWHILLの開発は始まりました。100mというわずかな距離でも、段差、悪路などの物理的なハードルだけでなく、車椅子に乗ることへの、心理的なバリアで外出をためらう人がいる。お気に入りのシャツやこだわりの自転車のように、自分らしくいられるデザインと、どこにでも行ける頼もしさを備えた新しい乗り物があれば、もっと外出が楽しくなるのでは。
私たちが目指したのは、デザインとテクノロジーの力を生かした、体の状態や年齢に関わらず、誰でも乗りたいと思えるパーソナルモビリティ。
「すべての人の移動を楽しくスマートにする」それが、私たちWHILLのミッションです。



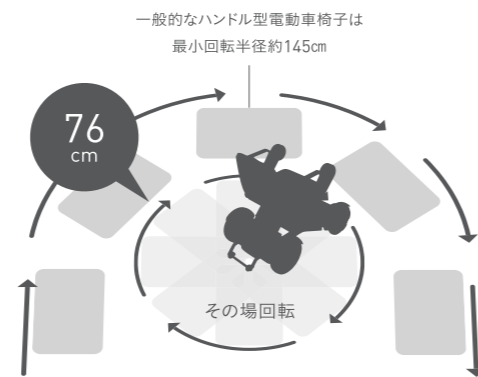
WHILL Model Cの機能詳細

POINT 1 外出をサポートする便利な機能



狭い場所でもスムーズな動き

特殊な前輪(オムニホイール)を採用することで、その場で360度回転でき、小回りの効いた動きが可能。狭い自宅内移動(廊下、キッチン等)、職場の狭い机のすり抜け、エレベーター内での回転、などでもスムーズ。



まとめ買いも余裕の ショッピングバスケット&荷物かけ

20ℓの大容量かごで買い物にも便利。足元にあるためスムーズに出し入れが可能です。バックサポートにはリュックなどの荷物をかけることもできます。



分解して通常の乗用車に積載可能

4ステップで簡単に3分割
車載して、病院やショッピングモールへ
分割してマンション室内に保管



POINT 2 安全な移乗をかなえる便利な機能



アームサポート跳ね上げ

アームレスト「両側」跳ね上げ可能
片側からの横移乗
スライドボード利用での移乗も可能



フットサポート跳ね上げ

フットサポートを90度跳ね上げられます。

横移乗の際に健側(足、手)利用での跳ね上げ



フットプレートを上上げての360度回転移乗



フットサポートに乗っても倒れない安定性

重心が低いので安定性抜群。
体重のある方が全体重かけて移乗可能。



POINT 3 お身体の状態に合わせたフィッティングが可能

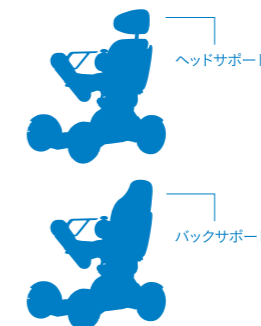
WHILL Model C パイプフレームタイプ ¥480,000(非課税)

さまざまなバックサポートクッションやヘッドサポートを装着することができます。分解時にはフレームの折りたたみが可能です。

市販の製品を取り付けることも可能です。例えば...

ヘッドサポート

様々な形状のヘッドサポートが取り付けられます。頭部のサポートが必要な方に。



高性能なバックサポート

体幹が左右に倒れてしまう方の身体状況に合わせた、ディープバックやラテラルサポートなども取り付けすることができます。



コントローラー

コントローラーを4種類からお選びいただけます



マウス
(標準装備、無料)
手のひらを乗せて操作します。



スティック
¥5,000(税抜)
手で握んだり指の間に挟んで操作します。



グリップ
¥2,000(税抜)
指の間に挟んで操作します。



Uシェイプ
¥13,500(税抜)
指や手首を乗せて操作が可能です。

Model Cは他の電動と何が違うの？

Model Cは簡易型電動車椅子の小回りの良さと、電動カートの走破性を両立した製品です。実際に比較してみましょう。

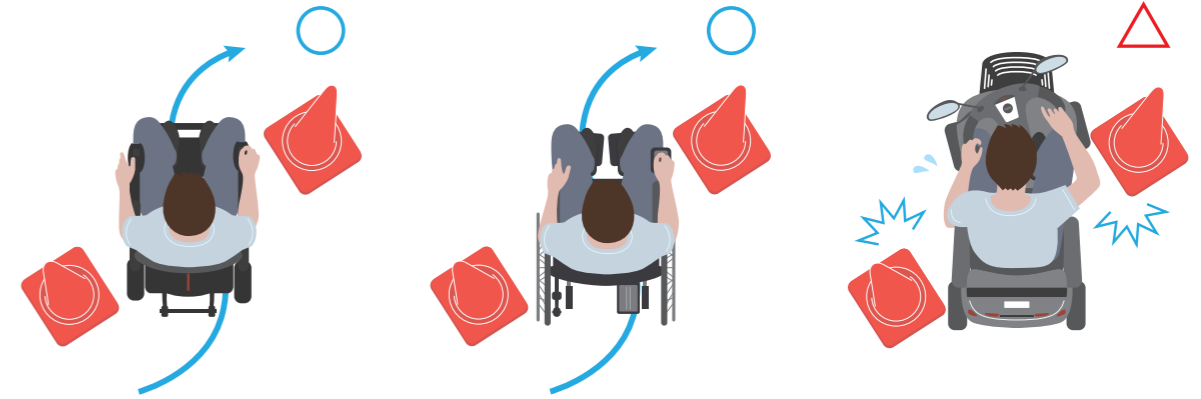


段差乗り越え(3cm) 簡易電動は前輪が乗り越えられない。



※最大5cmの段差までOK

S字走行 電動カートは小回りがきかない。

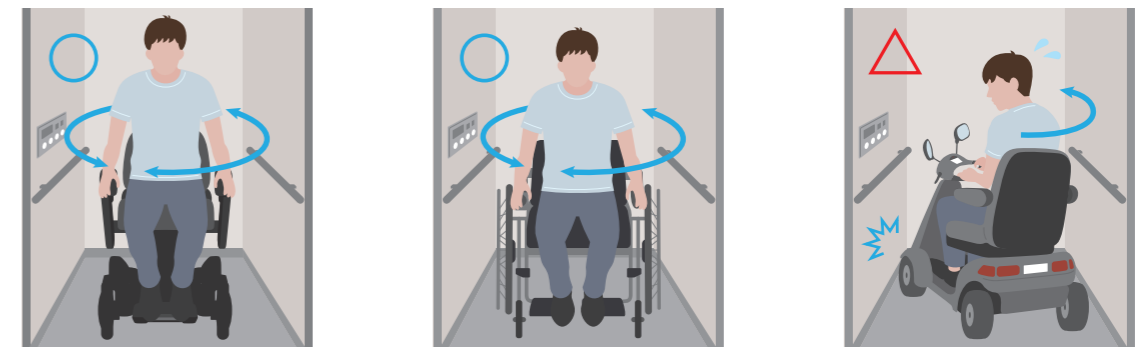


上り坂 簡易電動は10度の坂で前輪が浮いてしまい、不安定。



※最大10°の傾斜までOK

エレベーター内の旋回 電動カートはエレベーターの中で方向転換ができない。



下り坂 簡易電動はブレーキをかけた後にしばらく動いてしまう。



※最大10°の傾斜までOK

充電方法 電動カートは本体からのコードを伸ばす。簡易電動、WHILLはバッテリーが取り外せる。



Customer's Voice

お客様の声

WHILLを気に入っているところ

車椅子っぽくないデザインのおかげのせいなのか、「人の距離感」が変わったように思います。以前はすれ違う人が、気を使ってか、目をそらすような気がしていましたが、WHILLに乗っていると興味を持って話しかけてきたりしてくれるようになりました。特に子供とかの食いつきはすごいですね。(笑) あと座り心地もいいので、映画館でもそのままゆっくり鑑賞できます。



WHILLにどうしても乗りたかった

初めて手に入れた電動車椅子は簡易型でしたが、2台目はWHILLがいいと決めていました。大学を卒業し就職したタイミングで願いが叶いました。

WHILLの好きなところの一つは、どんなTPOにでもマッチするところです。結婚式に出席するときのドレス、成人式ときの振袖、就職面接のときのスーツなど、どんな服にも似合います。

他社の車椅子もスポーティーだったりカラフルだったり、カッコいい製品や、おしゃれな製品はたくさん出てきています。しかし、想像してほしいのは、私たちにとって車椅子はいつどんなときも乗っている物であるということです。



もう一度、大空へ

退院して自分の家に戻り、砂利道やデコボコした道を手動車椅子で漕いでみると、「なんでこんなに動けないのだろう」と驚きました。また、パラグライダーも再開したことから、山の斜面も走れるよう電動カートを使い始めましたが、車に積めないし、置き場所にも困ってました。一般的な電動車椅子は、そのデザインからあまり乗りたいたいと思いませんでした。ある時、YouTubeでWHILLを見つけ、これなら車に積めるし、普段はベッドの脇に置いておける、と思いました。「格好よく飛びたい」と常に思っていた私にとって、スマートな見た目も魅力でした。

